

地域がつくるみんなの居場所

社会教育士×NPO法人が取り組む
校内フリースクールの仕組み

NPO法人nicon 代表理事
社会教育士

桑原 さやか

はじめに

今日の要点

- ・ 校内フリースクールの仕組み
- ・ 運営の中で見えた変化と成果
- ・ 社会教育士としての見え方

キーワード

地域、居場所、社会教育士、NPO法人、校内フリースクール、
仕組み、変化、成果、課題

団体紹介



NPO法人nicon 2023年8月31日設立

目的（定款 第2章 第3条より）

この法人は、**学校へ行かない選択**、学校生活・対人関係に不安を抱える子どもたち及びその家族に対しての**居場所(フリースクール)の運営**に関する事業を行う。社会活動や体験学習提供者として**あらゆる経験を持つ大人の活動拠点を増やす**こと、多様な子どもの**教育の選択肢を増やす取り組み**や子育て世代への支援業務・交流の場の推進をとおして、**子どもが意欲的に学べる**ようになること、また健全な心の成長とSDGsの一環として衣類等の循環業務を行い、**貧困家庭や貧困国への支援**をすることを目的とする。

団体紹介

NPO法人nicon



カタチのないフリースクール
いきばしょ



地域食堂
nicon食堂



トーキョーコーヒー



ふくめぐり



現在までのエピソード

2021.5～

娘の不登校

きっかけとなった出来事
学校へ行くことが当たり前という考え

地区センターで実施
地域や学校からの
認識と理解は低い

2022.4～

カタチのないフリースクールいきばしょ開始

2023.8.31～

NPO法人nicon 設立

不登校の経験を持つメンバーが集まり
助成金や社会的信頼のため設立を決める

2024.2～

フリースクールを公立小学校内一室に場所を移す

PTA会長と校長の対話の時間を持てたことで
子どもの通う小学校の一室へ移動
校舎目的外利用申請し「地域交流」として借りる

2024.10～

主事講習受講

学校教育以外の「社会教育」の
可能性を感じ受講を決意

2025.1

社会教育士

講習での学び、社会教育を通じた仲間との出会い、
継続して学び、実践へ活かす必要性

フリースクールの一日

- 実施日** 火曜日・木曜日（週2回）
祝日や夏季・冬季休業はおやすみ
- 出席について** 学校の判断による
前年度より出席扱いとなった割合は増加
- 昼食** フリースクール内で調理したものを提供（無料）
- 登下校** 徒歩・自転車・公共交通機関・保護者の送迎など
- スタッフ** NPOスタッフ、学生ボランティア 3～4名



開始

10:00

子どものやりたいことを中心に、
自分で決め、自分の心地いい場所で
自由に過ごす

昼食

12:00

日替わりでカードゲーム・ボード
ゲームなど集団活動を実施
その他、外部講師による講座や屋外
活動を実施することも

終了

15:00

学校とフリースクールの違い

	札幌市公立小学校	フリースクール (いきばしょの場合)
場所	校区の小学校	小学校内の一室（ランチルーム）
運営	札幌市	NPO法人
対象	小学生	小学生、中学生（校区は関係なし）
支援者	教員	NPOスタッフ、学生ボランティア、町内会、民生委員、こども支援コーディネーターなど
時間	8:15～15:00	10:00～15:00
運営費	札幌市	フリースクール助成金（札幌市こども未来局） 寄付金
利用料	無償（教材費別途）	無料

経過と今後の展望

今後必要とされる段階。
これまでの経過から、「居場所があり、共に育つ楽しさ」を感じられた子どもたちが、次のステップにつながる可能性は高い。



学ぶ場所

学びたいときに学べる環境がある。
学びに向かう気持ちを、次につながる関わりができる。
学びたい場所で、学ぶことができる。
自分の成長を、他者と喜びあえる。

「いていいと思える場所」ができること、そのことが大切な価値。
次のステップを目標にすることなく、この価値を重視する。



共に育つ場所

学校に行くことができる。
同世代の子どもに触れることができる。
先生や地域の大人に会うことができる。



生きる場所

フリースクールがある。
行くことが出来る場所がある。
人との関わりがある。
社会との関わりができる。

運営の中で見えた変化

子ども

- ・「行きたい」と思って行く
- ・いやすい、居心地がいい
- ・楽しい
- ・笑顔が溢れる
- ・目的を持っている
- ・誰かと関わりたいと思っている
- ・「学校に行きたい」

保護者

- ・悩みを打ち明けられる
- ・悩んでいる仲間が見つかる
- ・子どもとの距離を持てる
- ・情報を得られる
- ・つながりを感じられる
- ・視野が広がる

地域

- ・子どもの支援に力を注ぐ
- ・支援者のつながりができる
- ・地域のつながりができる
- ・貢献できていることの喜び
- ・誰かの役に立つことができる幸せ

学校

- ・協力できる地域の人との繋がりができる
- ・学校教育での関わり以外の選択肢を知る
- ・連携・協働するためのラインや役割を話すきっかけになる

社会教育士としての見え方

受講前

学校へ行くため、学校に近づきたい
学校教育中心の考え方

学校教育や不登校支援への
知識不足

教育関係者とのつながりが薄く
子どもたちとの関わりに不安

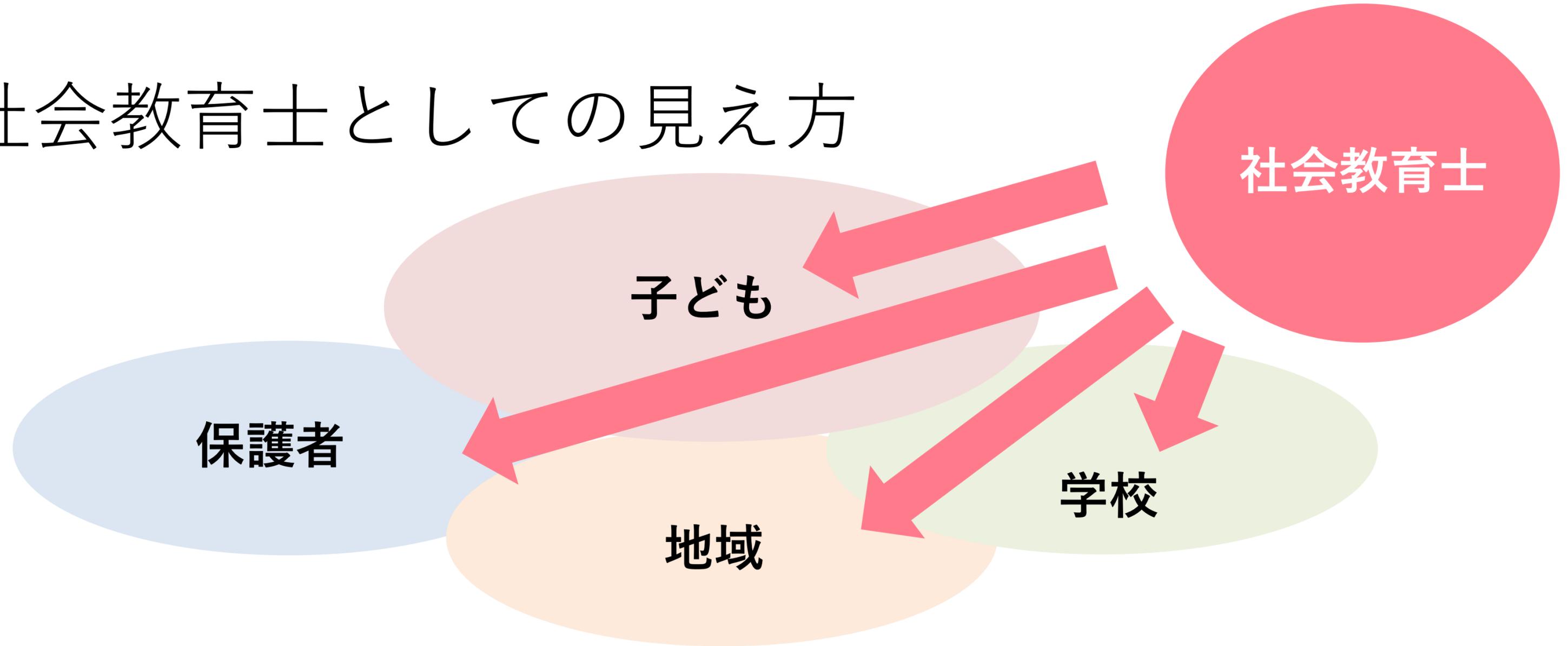
社会教育士 称号取得後

学校以外の場所にも、
学び育つ場所がたくさんある
社会教育の視点

家庭や地域、大人が関わることの大切さを
言葉にできるように

社会教育を通じた仲間や協力者と出会い
どんな学びもつなげらるという強さ

社会教育士としての見え方



一人の困りごと（課題）を解決するため、あらゆる資源や人脈を使い、伴走してきた。

結果として、NPO法人の立ち上げを行い、支援団体として運営を続け、多数の課題を抱えた人たちの支援を行うことができるように。

地域課題の解決に向け、学び続ける環境や人材の調整は、社会教育士としての活動だと考える。

課題

運営資金不足

札幌市は、他市町村では珍しいフリースクール助成金があるが、運営開始より2年継続の実績と、法人格である必要がある。

同じように行いたいという方も視察に訪れることがあるが、2年継続する体制や資金の確保にハードルを感じている。

成果の見えにくさ

子どもたちの行動の変容や心理面の安定は見られるものの、数値や学力での経過を観察することが難しい。

フリースクールへ来た日数や関わりは学校へ伝えるも、学校へ戻ったあとには、その後の経過も把握ができない。

人材の乏しさ

支援したい、フリースクールを立ち上げたいという支援者は多いが、資金面や運営の難しさから撤退していく人が多い。

特定の資格や免許を必要としないことから、募集の際にも人柄の信頼性を測ることの難しさがある。

THANK YOU FOR YOUR TIME

地域でいろいろな人に関わってもらった経験
大人になって貢献したいという気持ち
ここから作っていききたい
